

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20 36	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が不十分。本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努める。	利用者様お一人おひとりを尊重し、その時々々の環境や業務に流されず配慮した言葉かけを行うことができる。利用者様のこれまでの経緯を理解し、人生の先輩として常に尊敬の念を持ちケアにあたる。	カンファレンスや身体的拘束適正化検討委員会、研修等で改めて個人の尊重やプライバシーについて考える機会を作る。 相手の立場になり、自分がして欲しくないことは行わない。場所と時間、周囲の環境に応じた言葉かけやケアを行っていく。	12ヶ月
2	19 28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族との絆を大切にしながら、ともに本人を支えていく関係を今後も継続して築いていく必要がある。本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対して、既存のサービスにとらわれず柔軟な支援やサービスに努める。	利用者様お一人おひとりのニーズを把握し、それぞれのニーズにあった柔軟な支援を行う。その為にもご家族との関係を密にし、ご家族の事情も理解しながら、共にご本人の生活を支えていく。	普段の会話や表情、言動から利用者様の要望やニーズを見出し、カンファレンスや業務中のスタッフ間の意見交換を密にする。スタッフ間の共通の認識のもと、折に触れご家族にもご本人の状況や要望を伝え、共にご本人の生活を支えるパートナーとして協力していく。	12ヶ月
3	2 29	地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支える地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援する。利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう事業所自体が地域の一員として日常的に交流を深められる様にさらに努力する必要がある。	利用者様方が施設に閉じこもることなしに、安心して豊かな暮らしを楽しむことができる。多くの方と交流ができ、地域の一員として生活していくことができる。	自宅におられた時の楽しみを少しでも取り入れ、買い物やお出かけの機会も増やしていく。畑も活用し、元の生活に少しでも近づけるように活動していきたい。施設の業務も出来るところは利用者様に手伝っていただき、充実した時間を送っていただく。天気の良い日は外に出てご近所の方たちと交流したいと考える。	12ヶ月
4	35	災害対策 火災や地震、水害の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築く必要が急務である。	火災や地震、水害等の訓練はもとより、災害が発生した後も、いかにして利用者様の命と生活を守るかを念頭に置き訓練を行う。地域の人々とも協力しながら、災害対策を行うことができる。	時間帯や災害の種類に応じた訓練を行い有事に備える。運営推進会議を利用し、地域の特質性を理解し、地域の方々の協力が得られるよう推進会議メンバーの方のご協力も得て、交流を継続し信頼関係を構築していく。防災マニュアルも随時見直す。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。